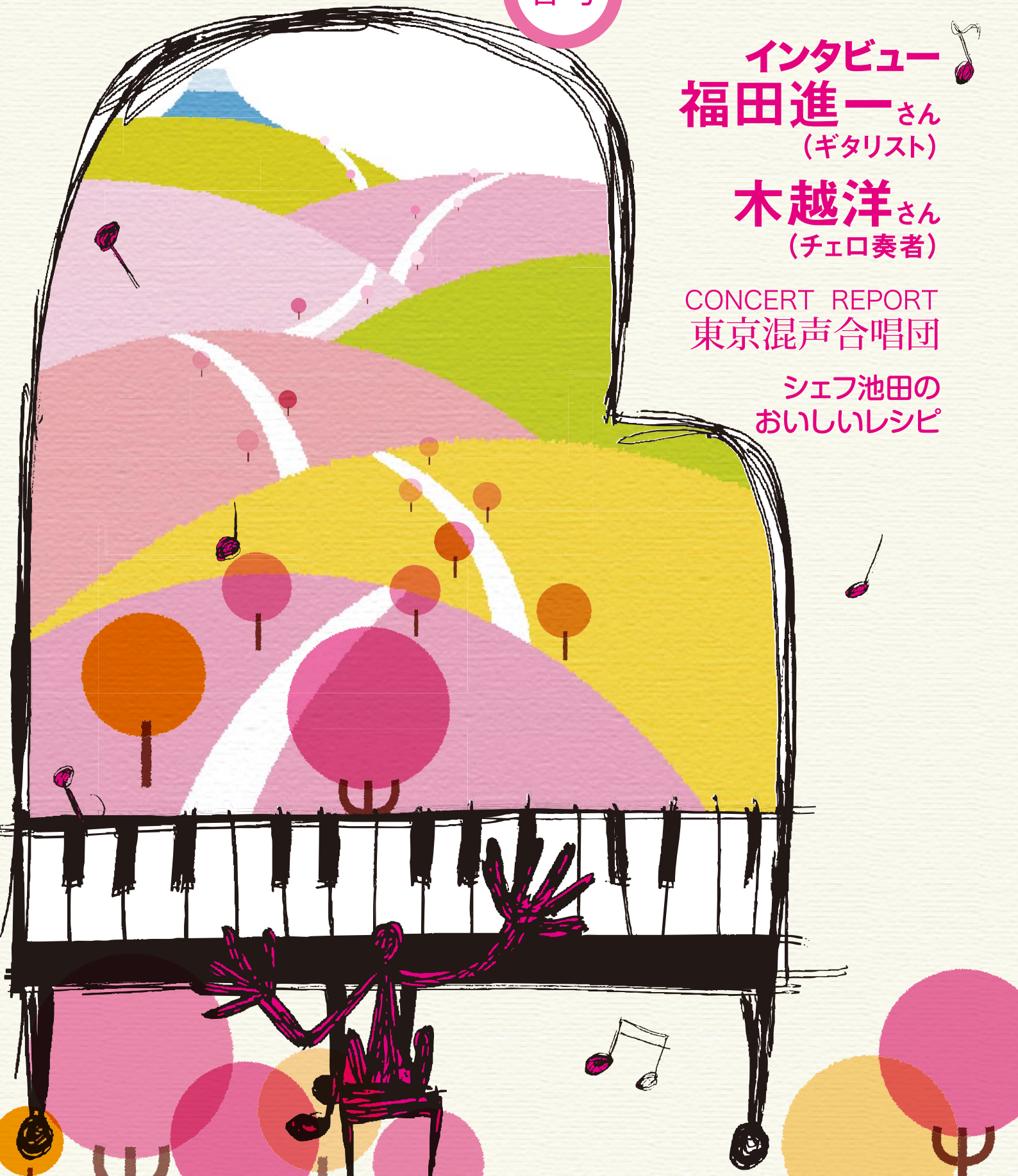
AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
MARCH 2014 No.73

春号



インタビュー
福田進一さん
（ギタリスト）

木越洋さん
（チェロ奏者）

CONCERT REPORT
東京混声合唱団

シェフ池田の
おいしいレシピ

インタビュー 福田進一

J.S.バッハをライフワークとしている福田さん。そんな福田さんに、バッハについてお話をうかがいました。

ギターを学ぶ者にとって、バッハの作品の入口となるのは《リュートの為の7つの作品》（BWV995～1000/1006a）ですが、実はこれらは難易度が非常に高いのです。で、まず最初に何を手がけるかというと、手頃なのは6曲の《無伴奏チェロ組曲》BWV1007-1012からの抜粋です。意外ですが、ギターは音域がチェロに近く表現しやすいのです。僕が一番最初に弾いたバッハはチェロ組曲第3番のプレリュードで、14歳の頃でした。バッハを知るというか、バッハの音楽はすてきだなぁと感じた初体験がこの曲だったわけです。そこから何年もかかって徐々にバッハ作品の奥深さがわかってきたのですが、若いうちは音楽全般の知識にしろ、技術的な楽器への取り組みにしろ、全てが浅いですから、バッハにいきなり飛びついてもなかなか難しい。まずどこをどう表現したらいいのか理解出来ないし、技術的な解決法がわからない。いっぱい疑問だらけです。それが年齢を重ねるとともに、こんがらがっている糸が少しずつほぐれてくるようにわかってきて、楽しくなってきました。ただ、僕のギタリスト人生は、現代音楽やポピュラーなど、他にもやらなくてはならない音楽が山ほどありましたし、いつもバッハ一筋という訳にはいきませんでした。好きなバッハ作品を全曲を弾くというのはとても大変なことなので、長年に亘って、ゆっくり少しづつ取り組んできたのです。

《チェロ組曲》第3番のプレリュードのあと、ブーレなど続きをやって、さらに何年か経って確か18歳ごろだったと思いますが、リュートのためのフーガをやりました。これは無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第1番第2楽章のフーガのバッハ自身による編曲です。コンクールに出るために取り組み、得意なレパートリーにしました。バッハの曲はあるひとつの作品を別の楽器のために編曲するということがよくあって、このフーガも、リュート、それからオルガン用にも書き直されています。続いて勉強したのが《チェロ組曲》第5番ハ短調のプレリュード。とても長い曲です。これもバッハ自身によって《リュート組曲》第3番ト短調にかき直されています。リュートとギターは、構造的には異なりますが、どちらも撥弦楽器なので、とても参考になります。

そして、パリ留学してから有名な《ヴァイオリン・パルティータ》第2番ニ短調のシャコンヌをやりました。シャコンヌはアンドレアス・セゴビアによる編曲の初演（1926年頃/パリ）以来、ギター音楽の定番となり、避けては通れない作品です。技術的にも音楽的にも恐ろしく難しい。卒業試験で演奏しようと思って始めました。ただ、結局、卒業試験で弾いたのは《ヴァイオリン・ソナタ》第3番ハ長調の第2楽章の長大なフーガでしたが…。これは、当時師事していたアルベルト・ポンセ先生からシャコンヌはやめて、こちらにしなさいと言われたのです。それまでこの曲をギターで弾いている人は誰もおらず、ヴァイオリンの先生に聴いてもらったりもしました。覚えるのも大変な1曲でしたが勉強になりました。その時は、どうしてこの曲をやらなくてはならないんだろうと思ったりしましたが、このフーガは、いつの間にか南仏カルパントラ国際コンクールの課題曲になっていたのです。ポンセ先生の作戦だった事が後からわかりました。おかげでそのコンクールで優勝できたんですよ。

そんなこともあって、バッハの音楽により真剣に取り組むようになりました。まぁ、労多くして実り少ないというか、やってもやっても難しいですけどね。そして、決定的だったのは、1981年のパリ国際ギターコンクールです。5つ以上の時代（ルネサンスからコンテンポラリーまで）の作品を入れて、2時間半のプログラムを組む必要がありました。コンサート2つ分の楽曲を暗譜しなければならないのです。これはかなり負担です。そこで、バッハの曲を入れることにしました。バッハの曲は長いものが多いので、バッハをやると他の曲が少なくて済むんです。どうせなら一番長い作品をやろうと思いました。そうすると《チェロ組曲》第6番が1番長い。27～28分あります。それとシャコンヌを入れ、残りを組み立てる作戦にしました。でも、チェロのことを知らない、ボウイング（弓遣い）もわからない。和声のこともわからないので、まずは当時習っていた和声のナルシス・ボネ先生にみていただきました。そしていろいろな講習会を教えてもらい、出かけました。ボネ先生が企画されたムスティスラフ・ロストロポーヴィチの講習会にも行きましたよ。さすがにロストロに僕のギターを聴いてくださいという勇気はなく、50人くらいのチェロの学生たちに交じって聴講したのですが。

まぁ、そんな感じでずっと取り組んでいました。12年前にDENONで最初のCD録音をしましたが、2011年に、このあたりで全集にしたいと思い立ち、過去にやったものと新しく取り組んだ作品を組み合わせ、マイスター・ミュージックからバッハ作品集のリリースを開始し、この春、第4集を発表します。バッハが表現しているものは非常に人間的ものだと思います。特に弦楽器のための作品は非常にチャーミングで、ある意味、ロマンティックで感情に直接訴えかけてきます。これはロマン派に発展したギターという楽器に適していると思います。バッハの時代には現代で言うところのギターはなかったですから、逆に言えば発想の束縛がなく、何を表現しようと自由です。いろいろなアプローチ、表現の選択肢が広いし、何より他に誰もやっていないところが嬉しい。全曲演奏会もやっている人はほとんどいません。だからとても挑戦しがいがあります。

僕の《チェロ組曲》については、どの作品も同じくらいの匙加減で和音を追加するようにアレンジしています。原曲をそのまま弾くという手もありますが、ヴァイオリンの作品だとやたらと甲高くなったり、チェロの作品だとやたらと低くなったりするため、音の高さを変えてバランスを取ります。その微妙な選択、アレンジの能力が問われますね。バッハの音符を変えるわけではないですが、通奏低音を考え、可能な音を追加して幅をもたせるわけです。もっとも、ロマン派から前世紀の初頭あたりまでは何をやっても構わなかったので、ブゾーニやラフマニノフのピアノ編曲やタレガやセゴビアのギター編曲など、かなりグロテスクな音が追加されました。あの時代は自由にやっても許される時代でしたけど、新即物主義を経過して、歴史考証や古楽研究の進んだ21世紀ではそんなことはできないので、いろいろチェックしなければならない。そこに時間がかかります。練習よりも、音を足した結果、人が聴いて違和感を感じないかどうか、様式感を考える時間の方が多いですね。そして移調する場合も。チェロ組曲は移調が必要で、ぴったりくる調を選ぶのが大変なんです。ただ、バッハの場合は有難いことに、参考になることを本人がやってくれています。例えば、《ヴァイオリン・ソナタ》第2番イ短調BWV1003を《ハープシコード・ソナタ》ニ短調BWV964に編曲していますが、明らかに、楽器の響きを考えて移調しているのがわかります。バッハ自身が適切な移調を教えてくれているのです。バッハは平均律の大家ですから。ほかのものもその考えに沿って移調すると自然にはまっていきます。そういう移調の仕方を自分なりに見つけてやっています。チェロ組曲では、第1番から第3番を5度上、第4番を4度上、第5番を6度上、6番は原調で演奏します。また、コンサートでの演奏順を替えることで（第1番→第5番→第3番、休憩後、第4番→第2番→第6番）プログラムの後ろに行けば行くほど楽器が響くようにしています。そして前半と後半がだいたい同じ長さになるようにしました。

《チェロ組曲》を全曲やってみて再認識したのは、6曲のキャラクターが明確に違うということです。組曲ごと同じ舞曲を比較しても、そのキャラクターが全部違う。例えば、バッハの作品にはメヌエットと名のつくものが20数曲ありますが、ひとつとして同じものがないのです。これはどの組曲にも言えますが、特にチェロ組曲では、発想の泉、工夫の凄まじさを感じます。しかも苦労した感じがしません。天才として、超然と存在していますよね。教会音楽に感じられるように、天上から私たちを見ているというか、暖かく包み込んでいる印象があります。そんなところがバッハの魅力ですね。各組曲の性格は、それぞれの冒頭のプレリュードに集約されています。第1番は若々しく健康的だし、第2番は苦悩、第3番は大らかです。そして第4番はエレガントで、第5番は深く、第6番は歓喜に溢れる、といった各コンセプトが明瞭です。このコントラストは演奏会でぜひ出したいですね。ギターは繊細な面はいくらでもつぎつめられ、チェロの持つ迫力とはまた違った、対位法的な要素が実現しやすいと思います。技術的には第1番から第6番に向かって後ろに行けば行くほど、難しい。これは、バッハは教育的な意味、あるいは教則本としての効果も考えていたのかもしれませんね。

バッハはまだまだ奥が深い。ギターでは幾つかの鍵盤楽器の作品も弾けます。他の弦楽器では無理ですよね。ギターの技術の制約が多いなんて言う人もいるし、音が伸びないなんて声もありますが、僕は全然困ったことはありません。チェロやヴァイオリンは和音が同時に弾けないわけですし、逆に言えば、あちらは音が切れないですからね。何を長所短所と考えるかによると思います。何でも可能と思われているピアノだって制約はありますよ。左手で音程を創り出していく弦楽器と異なり、ひとつのキーで1種類の音しか出せません（例えばヴァイオリンは同じ「ミ」でも、押さえる弦により音色が異なる）。要は、それぞれの楽器の持つ良い部分を抽出してバッハの音楽に当てはめていくと、自然と良いものが出来ると思っています。バッハの音楽は難易度の高い、でも夢中で楽しめるパズルのようなものですね。

7月のコンサートでは少しお話も交えながらすすめたいなと考えています。ぜひお楽しみに。

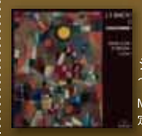
普段はたくさん冗談を言う、とても楽しい福田さんですが、ひとたび音楽のこととなると、驚くほど真面目に話してくださいます。音楽に対していつも真摯なその姿に、お話をおききするたび、感服します。

2014年1月13日（月・祝）
関本淑乃（静岡音楽館AOI 学芸員）

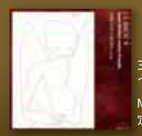
福田進一によるバッハ・シリーズ第4弾『シンフォニア～J.S.バッハ作品集Ⅳ～』は2014年3月25日発売です。無伴奏チェロ組曲が完結します。

MM-2177
定価￥2,816（税別）

第1弾～第3弾も好評発売中。



シャコンヌ
～J.S.バッハ作品集Ⅰ～
MM-2101
定価￥2,914（税別）



主よ、人の望みの喜びよ
～J.S. バッハ作品集Ⅱ～
MM-2120
定価￥2,914（税別）

G線上のアリア
～J.S. バッハ作品集Ⅲ～
MM-2168
定価￥2,816（税別）

発売元：マイスター・ミュージック

福田進一（ギター）plays
J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 全曲

7/21（月・祝）15:00 開演（14:30 開場）※17:45 終演予定
全指定¥4,000（会員¥3,600、22歳以下¥1,000）［Pコード=216-467］

曲目　J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲 第1番 BWV1007、第5番 BWV1011
第3番 BWV1009、第4番 BWV1010
第2番 BWV1008、第6番 BWV1012

講演会
福田進一の魅力
7/21（月・祝）13:00～14:30
静岡音楽館AOI・講堂（7階）　講師 濱田滋郎（音楽評論家）
無料（要申込）

福田進一の魅力

同じ時代に生まれ、一緒に演奏できることを神様に感謝したい存在の福田さん。

作曲家が残した「楽譜」という記号から本当の音楽を呼び起こす技には、何度ご一緒しても予想をはるかに越える次元で美しく、繊細で、けれど時には情熱のエネルギーが身体をかき回すように駆け抜ける……その全てがあまりに自然に福田さんの指から生み出され、その音色に、舞い踊る旋律に、隣りで鳥肌がたちます。

舞台で、本番のその瞬間に福田さんが奏でる音楽の霊（たましい）は、ホールの空気の流れや温度までも変えてしまうほど、本当に素晴らしい……そんなことの出来る福田さんを心から羨ましく思います。

たとえ普段が超コテコテの大阪弁のおっさんで、知り逢って30年経った今でも舞台の姿とのギャップに“勘弁してよ”と思っても、私は“音楽家”福田進一「命」です！

佐久間由美子（フルート）

僕がおそらく中学生だった頃、福田進一先生の演奏を初めて聴いた時のショックは色あせません。むしろ、時が過ぎるほど鮮明になっていく気さえします。革新的な軽快さ、音色の幅広さ、洒脱さ、どれもがそれまで聴いたことのないギターの世界でした。どのような作品も、あたかも出来立ての新作のように弾きたい、との師匠のお言葉通り、彼の演奏は年輪とともに深みと懐の大きさをますます獲得した今日も、新鮮で痛快な衝撃に満ちています。今、第3集まで発表されているバッハ作品集では、さらに、僕が初めて聴いた時のような驚きやわくわく感を、何度も味わうことができます。これは並大抵のことではありません。耳も、眼も、舌も、一度覚えた味に幾度となく感動することは難しくなってゆきがちなのですから。いつも変わらぬ、以上に驚嘆すべき、いつも新しい福田先生の演奏のエッセンスが詰まったバッハの無伴奏チェロ組曲の夕べ、みなさんにも、是非体験していただきたいです。

鈴木大介（ギター）

福田さんと初めてご一緒させていただいたのは2004年だったと思います。その時の福田さんの音楽の捉え方に衝撃を受けました。福田さんの音楽には小節線がないのです。例えば4拍子の音楽なら、1,2,3,4,1！と必ず小節の頭に意識が強くなってしまうのですが…福田さんはずっと淀みなく流れているのです。声楽家にとって、これは究極的な理想形に思えます。言葉を伴って演奏できる、我々声楽家にとって、小節線は時に「邪魔なもの」に感じる時があります。古典の時代から現代に来るにつれて、より言葉を重視した作曲が為されているのは確かです。それでもやはりカウントしてしまう。そういう「止まる点」が福田さんには無いように思います。言葉は必ずしも拍と一致はしていません。

photo:Kokei Take

私はアンサンブルが好きで、男声ユニット「IL DEVU」の活動もしておりますが、どうしても「縦を揃える、ハモらせる」という意識が働いてしまって、行儀の良すぎる音楽になりがちなのですが…福田さんとの演奏の時には、私に自由を与えてくれるのです。アンサンブルの達人ですね。それはこれまで共演された方々をみれば、各方面から信頼を受けているのは明らかです。

望月哲也（テノール）

福田先生の演奏を初めて耳にしたのは、中学1年、韓国にいた時です。韓国のギターの師匠に福田先生のCDを薦められ初めて聴いて、その洗練された表現とテクニックに惚れ、その後ずっと福田先生に憧れの気持ちを抱いていました。そして中学3年の頃、日本に来て初めて先生の生演奏を聴いて、CDで聴いた以上の聴衆を惹きつけるパワーと魅力に圧倒されました。初めて先生のコンサートに行った時はまだ日本語がわからなかったので、福田先生が演奏の合間にお話しされる言葉の意味を理解することはできなかったのですが、聴衆の皆様が楽しく笑ったり、幸せそうな笑顔を浮かべていたのを鮮明に覚えています。お客様との対話を大事にされていて、ステージと客席が音楽を通して共感し合い、そして気持ちが繋がる、という素晴らしい空間でした。今回福田先生のコンサートにいらっしゃる皆様も、きっとこのコンサートを通して幸せで楽しいひと時を送られることと思います。

福田先生が日本のギター界の第一人者であり続けていることは、その観客を釘付けにする演奏、若手ギタリストへの熱心な教育など、先生が残して来られたたくさんの業績が表していると思います。そんな福田先生をこれからも応援し、尊敬し続けたいと思います。

朴葵姫（ギター）

野平一郎：演劇的組歌曲《悲歌集》（2007年6月1日）静岡音楽館AOI　　撮影：日置真光

学芸員雑記

静岡音楽館AOI学芸員
小林 旬

J.S.バッハの無伴奏チェロ組曲①

J.S.バッハの無伴奏チェロ組曲BWV1007～12がチェロの「聖典」であることに異論はないだろうが、しかし、それは初めから「聖典」として存在したわけではなかったどころか、実用的な「練習曲」としかみられていなかった。この作品の真価を「発見」したのは20世紀の巨匠（マエストロ）P.カザルスが13歳のときだった。彼は研究の後、25歳でそれを世に問うた。「組曲はアカデミックな作品と考えられてきた。テクニック一辺倒の、機械的で温かみのないものだと。考えてごらんよ！広がりと詩情が一点の曇りもなく輝きあふれるあの曲が冷たいだなんて、だれがいえるだろう！あの作品はバッハの本質そのもので、バッハは音楽の本質そのものなのに」。「バッハなしには私の一日は始まらない。食べ物や水はなくてもかまわないが」（池田香代子 訳）。

F.メンデルスゾーンが1823年にマタイ受難曲 BWV244（1727～36）を「蘇演」して以来、19世紀、20世紀はバッハの神格化の時代だった（メンデルスゾーンやカザルスがそれを意図していたわけではないにせよ）。「音楽の父」とよばれるバッハは音楽における「父なる神」のようではあるが、それはあくまで彼の側面のひとつである。彼はまた、当然のことながら家族を愛するひとりの人間であった。バッハの2番めの妻アンナ・マグダレーナの手になるという回想録「バッハの思い出」はじつは偽書だが（イギリスの女性作家E.メイネルによるフィクション）、そこに人間バッハのすがたを想う。「ときどき彼のうえに暗く蔽（おお）いかぶさるある種の気難しさも、私たち一家の団欒の際には跡形もなく消え去りました。彼はまったく開けっ放しの快活な愛情そのもので、子供たちの話すことには何でもいちいち興味をもって、どんな小さな子のどんな小さな片言の報告もいい加減にはしませんでした」。「彼は家族の何というよき父親でありましたことか」（山下肇 訳）。

21世紀は、過度な「神格化」の呪縛から解放されたもっと自由なバッハを表現する、いわばバッハの「人間宣言」の時代になるのではないか ―。バッハの音楽のすばらしさは、厳格な構築性だけにあるのではない。その音楽のなかに隠されているのは ― いや、作品に隠されているのではなく、従来の権威的な解釈が隠してきただけなのかもしれないが ― 踊り、歌い、笑う、そんな人間としてのバッハのすがたである。この組曲に限らず、バロックの組曲はけっきょくのところ舞曲集である。様式化され、実際に踊るための音楽ではないにせよ、舞曲としての性格がまったく形骸化しているわけではない。バッハは踊る。しなやかに。

木越洋

YO KIGOSHI

2014年6月11日（水）、
ランチタイム・コンサート「木越洋のチェロがうたう」で
ご来静いただくチェロ奏者の木越洋さんに
お話を伺いました。

―― 今回のランチタイム・コンサートは、とても興味深いタイトルですが、どのようなコンサートになりますでしょうか？

今回の演奏会は、「チェロがうたう」というタイトルです。音楽を聴くのは好きだけれど、クラシックはどうもかた苦しくて…という方々のために、皆様が聴いたことのあるメロディ、例えば日本歌謡曲の名作〈川の流れのように〉や、サン＝サーンスの〈白鳥〉など、音楽のジャンルを問わず有名な曲を皆様にお届けしようと思いました。
そしてメロディは「唄」の場合が多いので、コンサートのタイトルを「チェロがうたう」とさせていただきました。

―― チェロを始めたきっかけは？

チェロを始めたのは7歳の時なので自分の意志ではありませんでした。父親が自分の子供に音楽をやらせたかったようです。子供の時は音楽が好きというわけではありませんでしたが、なぜかやめたくないと思ったようです。
13歳の時、漠然とした想いでしたがプロの音楽家になろうと思いました。そして20歳の頃、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲を仲間たちと弾いてこんな素晴らしい音楽があるのだから音楽家になりたいと強く思うようになりました。

―― もし音楽家でなかったら、どんな職業に就いていたと思いますか？

子どもの頃は庭師か大工さんになりたいと思っていました。今は料理が趣味なので、料理人になっていたかもしれないと思っています。

―― 木越さんは長年にわたりNHK交響楽団の首席奏者でいらっしゃいましたが、オーケストラの一員としての演奏と、ソロ・リサイタルでの演奏でステージに立たれる上での心構えで何か違いはありますか？

リサイタルなどでチェロとピアノだけ、という時のほうが、チェロが音楽に与える影響は大きく、常に全体に関わっています。ただ、オーケストラの中でチェロが音楽全体に影響を与えなければいけない時は、特別な魅力が必要です。その時の特別な表現方法を、リサイタルの時でも出せるようにすることが、私の目指すところです。

―― 普段、どのような練習をしていますか。心がけていることはありますか？

普段、特別な練習はしません。ただ、次のコンサートの準備のために毎日弾いています。心掛けていることは良いチューニング、調律です。

―― 今回の静岡音楽館AOIでの公演は、2011年11月に「N響首席奏者たちのよる室内楽」で、堀正文さん、佐々木亮さんとともにご出演いただいて以来です。静岡の皆様にメッセージをお願いいたします。

皆様に音楽を通じて、またお会いできることをたいへん嬉しく思っております。今回はたいへん解りやすいプログラムですので、楽しんでいただければと思っております。

とても柔和で気さくなお人柄の木越さん。6月11日のコンサートは、私たちが知らないチェロの魅力を存分に堪能できることでしょう。皆様、木越さんの演奏を是非聴きに来てください。

聴き手：竹内啓（静岡音楽館AOI 学芸員）

ランチタイム・コンサート
木越洋のチェロがうたう

6/11（水）11:30 開演（11:00 開場）※12:30 終演予定
全指定¥1,800（会員¥1,620、22歳以下¥1,000）［Pコード＝216-459］

出演　木越洋（チェロ）、山田武彦（ピアノ）
曲目　C.サン＝サーンス：白鳥《動物の謝肉祭》より
P.I.チャイコフスキー：メロディ 変ホ長調《なつかしい土地の思い出》op.42 より
谷村新司：いい日旅立ち
見岳章：川の流れのように　ほか

木越洋さんの おすすめ CD

「S.ラフマニノフ：晩禱」

レーベル：ビクターエンタテインメント株式会社
VDC-1135

A.スヴェシニコフ指揮のソビエト国立アカデミー・ロシア合唱団の名盤です。無伴奏の合唱曲で、オーケストラの仕事で疲れた時よく聴いていました。

CONCERT REPORT コンサートレポート

東京混声合唱団「日本のうた」

2014年2月8日(土)

塚本一実(作曲家・常葉大学短期大学部音楽科准教授)

全国的に大雪という大荒れの天候の中、多くの人の期待と探求心に満ちた空間が開演前のAOIホールにあった。合唱への興味、音楽への探求、文化の向上に力を注ぐ人々の集まりである。開演後、指揮者(山田和樹)のトークに始まり、静岡大学混声合唱団長への突然のインタビューが会場内の雰囲気を柔らげ、時間は音楽会へと流れていく。

第1曲は、武満徹の『混声合唱のための《うた》』というCDから4曲が抜粋され演奏された。演奏は静岡大学混声合唱団と東京混声合唱団による合同演奏。1曲目の〈島へ〉はきれいで聴きやすい曲、2曲目の〈○と△の歌〉は堂々とした趣き、3曲目の〈明日ハ晴レカナ、曇リカナ〉はしっとりとした感じ、最後の〈小さな空〉は抒情的でしっかりしたフォルムをもつ曲、といった印象をもった。この4曲の演奏順には、的確な音楽的必然を感じた。

第2曲は、柴田南雄作曲の《追分節考》シアター・ピースNo.41。演奏は東京混声合唱団(以下「東混」)と称す)。シアター・ピースとは、舞台上の演奏行為だけでなく音楽会場全体を多角的に使用した演奏スタイル、また、パフォーマンスや動きも含む演奏法である。この作品は、東混の「おはこ」。複数のユニットがバラバラに別のことを演奏し、その融合の中、客席で歌う東混男声の追分節が時間軸を引っぱっていく。ユニットの内容は、尺八(関一郎)、朗読、民謡など。次に何が起きるか興味津々、といった空気が聴衆に感じられた。指揮者の指示する文字プレートに支えられる演奏には、西洋的なパルスは存在せず、会場は圧倒的な歌唱力に包まれた。

休憩を挟み、次は静岡音楽館AOIの委嘱作品。「世界初演」という言葉に会場はどよめいた。作品はクリスティアン・メイソン作曲の《Unseen Seasons》〜『枕草子』による〜で、演奏は東混。静岡とイギリスが生んだこの作品は、いわゆる現代的なドロドロとした不協和音、持続音、特殊奏法、お経のような同音の持続、幅広い跳躍、つぶやき、などが使用されている。一つの音(言葉)ごとに分離するような大きな跳躍が多い難曲であり、清少納言の詞を壊すような作曲法は、作曲者の意図であろうか。無声音によるつぶやきに強弱をつけて起こした波は、詞の「風の音、虫の音」を描写し、筆者の興味を引いた。歌唱に高度な技術を要するこの作品は、時代的にも地理的にも、まさに異文化の融合といえるだろう。

音楽会の最後の曲は、野平一郎作曲の混声合唱のための幻想編曲集

《日本のうた》。演奏は東混。作曲者は編曲という言葉を用いているが、筆者はその枠を超えた作曲行為と捉え、作品を聴いた。1曲目のわらべうた〈ずいずいずっころばし〉は、童謡を引用した楽しい作品であり、一つのメロディーを様々な観点から捉え、絶妙なハーモニーを付けていく。そしてそれを変容の域に到達させる。その反面、作品の内面にはコミカルさも感じる。2曲目は〈この道〉。シリアスな部とコミカルな部を交互に出現させた後、元来の〈この道〉が歌われる。フォルムが創るコントラストに「新しさ」を発見した。3曲目はブルース調の曲、演劇的組歌曲《悲歌集》より〈想うことはいつも〉。4曲目は清元節〈卯の花〉。不協和音に始まるが、それは、現代曲に多用される不快なものではなく、澄んだ印象の不協和音。「トテチン」という言葉、「ヨーッ!」というかけ声など、邦楽的な要素を多分に含んだ作品で、どこか1曲目の「わらべうた」を回想させる。最後は拍子木一発の打音で曲を閉じる。これら4曲はすべて、作曲者の意図が明確に伝わるものであった。作曲という定義、編曲という定義について、改めて深く考えさせられる作品でもあった。

二人の物故した現代作曲家の作品による前半。後半は現役の作曲家二人の作品。アンコールに〈赤とんぼ〉。ホール内の音をバランス良くコントロールした東混の見事な演奏 ― 作品の存在感、質の高い演奏、音楽会の構成 ― これだけ内容の濃い音楽会はそう多くはない。音楽とは「音を楽しむ」と書くが、この日のAOIホールには質の高い「楽しみ」があり、客席からは「澄んだ歌声とハーモニーに涙が出た」という声が聞こえ、ほぼ満席。筆者は質の高い作品と演奏そして聴衆に、手が痛くなるほど拍手をした。

撮影:日置真光

まもなく、締切です。

第9期「ピアニストのためのアンサンブル講座」(ピアノ伴奏法講座)

定員／6名
受講料／￥120,000
申込締切／4月20日(日)必着

聴講生随時募集中!

第16回「静岡音楽館AOIコンサート企画募集」事業

申込締切／5月31日(土)必着

静岡"ぴ"室内楽フェスティバル2014 第4回 アマチュア・アンサンブルの日♪参加者募集!

静岡の室内楽をより豊かにするために開催される
「静岡"ぴ"室内楽フェスティバル」で、
静岡音楽館AOIはアマチュアのアンサンブルを応援します。
全24組のアンサンブル団体で構成されるコンサート
「アマチュア・アンサンブルの日♪」。
あなたもAOIのステージで演奏してみませんか?

日時／2014年11月3日(月・祝)
12:00 開演
＊20:00 終演予定(11:30 開場)
募集定数／24組(無審査・多数抽選)
参加費／無料
応募締切／2014年4月25日(金)必着

第3回「アマチュア・アンサンブルの日♪」出演者の声

・楽しく演奏でき、良い経験となった。
・プロの方々と同じ舞台で演奏できてとても嬉しい。
・AOIの響きがとても心地よかった。
・AOIのホールで演奏するという体験が普段の練習などの励みになる。
・来年もぜひ参加したい。

いずれも詳しくは各募集要項をご覧ください。募集要項は静岡音楽館AOIのホームページでからダウンロードできるほか、7階受付カウンターでご用意しています。

シェフ池田のおいしいレシピ

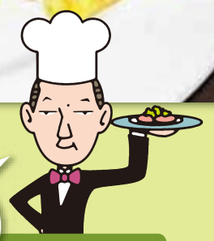
春雨のオムレツ

薄焼き玉子の中は、チキンライスと思いきや、春雨と豚ひき肉と野菜を炒めたものを包んだオムレツです。

材料(4人分)

- ●豚ひき肉…400g
- ●玉ねぎ…中半分
- ●人参…中1/4
- ●春雨…200g
- ●玉子…8個
- ●サラダ油、塩、胡椒、ケチャップ

1. 春雨はお湯で戻して、長ければ切る。
2. 豚ひき肉をサラダ油で炒め、人参、玉ねぎを加え、塩、コショウする。
3. 2のフライパンに、春雨を加え、再び塩コショウ。
4. フライパンで、オムレツ用に薄焼き卵を焼き、半熟状態で火を止め、春雨の具を中央に乗せる。
5. 薄焼き卵で周りを包み、皿をフライパンに被せ、一気にひっくり返す。皿の上で形を整え、ケチャップをかける。



実は、今87才の母が、私が子どもの頃に作ってくれたオムレツです。懐かしいおふくろの味です。

池田直樹
バス・バリトン歌手
元・静岡音楽館AOI企画会議委員

静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

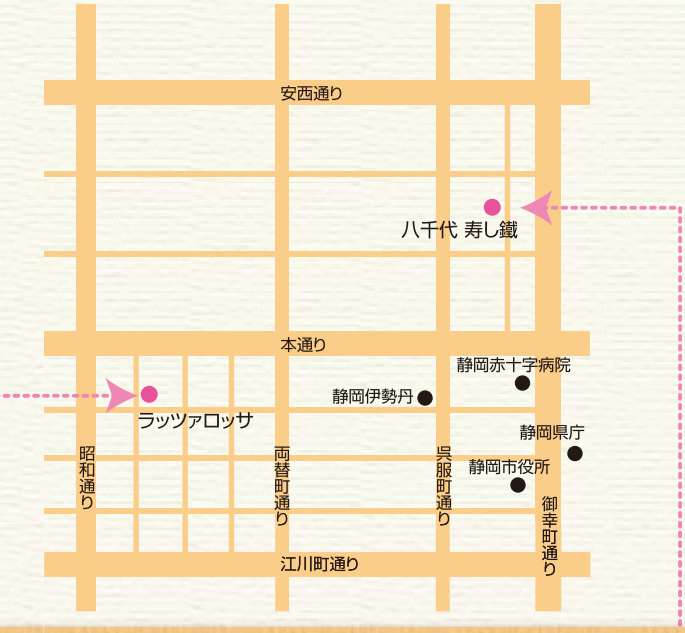
チケットでスマイル

Ticket de Smile

加盟店のご紹介

Ticket de Smile加盟店は静岡街中に55店舗!
ぜひご利用ください。

※チケット記載の日付(期間)に限り、1回ご利用いただけます。
※チケットを提示されたご本人さまのみ有効です
(店舗によって異なる場合があります)。



美味しいお酒と料理をのんびりと楽しんでいただけるイタリアンバー!!

ラッツァロッサ

TEL.054-205-8444　静岡市葵区人宿町1-3-12
営業時間／18:00〜24:00　(木曜日定休)

おすすめ

- ●絶品!!自家製かきのスモーク……800円
- ●トリッパ(牛ハチノスのトマト煮込み)……1,200円
- ●ポテトのニョッキ・ゴルゴンゾーラソース‥1,300円

(税別)

10%off
※チケットに記載の日付(期間)から1週間後まで1回限り有効

駿河湾の地魚を中心に使う寿司店です。気軽な「おきまり」や、安心の「おまかせコース」もあります。

寿し割烹 八千代 寿し鐵

TEL.054-252-2889
静岡市葵区八千代町63−4
営業時間／
11:00〜14:00、16:00〜22:00
(水曜日定休)

おすすめ

- ●駿河のにぎり‥‥2,000円
- ●おまかせ握りコース ……6,000円
- ●マグロのホホ肉ステーキ ……1,000円

(税別)

特選駿河湾地魚1貫サービス
※チケットに記載の日付(期間)から1週間後まで1回限り有効

AOIコミュニケーション ひろば お客様の声

オルガンを中で聴けないなら来た意味がない。そのようにインフォメーションして欲しい。

ご案内が行き届かず申しわけありませんでした。コンサートはオルガンに限らず、途中入場ができない場合もございます。遅れていらしたお客様にもお楽しみいただけるよう努力したいと思いますが、どうぞお時間に余裕を持ってお越しくださいますよう、お願い申し上げます。

久しぶりにお箏の演奏を聞いてとても良かった。これからも日本の音楽をお願いします。

ご来場、まことにありがとうございました。当館ではクラシック音楽以外にも邦楽やジャズなど、幅広いジャンルのコンサートをお届けしたいと考えています。今後もコンサートシリーズに取り入れてまいりますので、どうぞご期待ください。

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、平成26年度をもって退会をご希望のかたは、平成27年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員(2014年2月末現在)50音順

- ●(株)アオイテレテック
- ●(株)SBSプロモーション
- ●かわした歯科クリニック
- ●コカ・コーラ イーストジャパン(株)
- ●(株)サンタモンコーポレーション
- ●静岡ターミナルホテル(株)
- ●(株)静岡博報堂
- ●(株)タミヤ
- ●(株)戸田書店
- ●(有)丸吉事務機
- ●三菱電機(株)静岡製作所
- ●(株)メディア・ミックス静岡

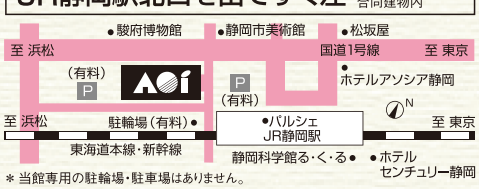
コンサートシリーズ2014-15
主　催　静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団
特別協賛　静清信用金庫
協　賛　アイワ不動産　HARVEST HOMES
コカ・コーラ イーストジャパン株式会社
ホテル センチュリー 静岡　ANSHINDO

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- ＊価格は税込です。
- ＊都合により内容を変更する場合があります。
- ＊お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。
- ＊場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。
- ＊携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。
- ＊他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- ＊静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様を8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止になっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください(ただし、1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を優先してご案内いたします)。
- ＊静岡音楽館AOIが主催するコンサート(一部を除く)では、未就学児は入場いただけません。

託児サービス(AOIの主催事業に限ります)
要事前予約(1週間前まで)・託児料：1人¥1,000
すわん TEL.054-255-5377(9:00〜21:00)
留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左 静岡中央郵便局合同建物内



＊当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

月曜日休館(ただし祝日開館、翌日休館) 9:00〜21:30開館
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9
お問合せ
054-251-2200
AOI 検索